

## 地域連携推進会議 公開資料

本資料は、地域連携推進会議の内容を、個人が特定されない形で“要点”にまとめた公開用の記録です。

### 【開催概要】

日時：2026年2月27日（金）13:15～14:30

会議終了後、2班に分かれてホーム見学 ～ 16:00 解散

会場：多摩市民館（会議室）

出席（役割）：利用者2名／ご家族1名／後見人（欠席）／地域住民1名／  
相談支援1名／実習生1名／事業所職員3名（計9名）

ホーム見学：事前アンケートに基づき、利用者さんから見学「不可」の意向があったホームは見学せず、写真で雰囲気のみ共有  
（6ホーム中5ホームを見学）

### 【目的と約束】

目的：それぞれの立場から“普段の思い・感じていること・確かめたい点など”を話し、地域で共に暮らす相互理解を深める。合意や評価は目的ではありません。

約束：

- ・ 評価はしません。
- ・ 個人が特定できる情報は扱いません。  
（ご自身のことは話していただいて構いません）
- ・ 発言なしの参加・途中の入退室も大丈夫です。
- ・ 記録は事業所が責任管理し、制度に基づき“要点のみ”を公開します。
- ・ ※ 個人が特定される内容は公開しません。

## 【法人理念とホームのこと】

理念：「共に生き、共に育つ」

障害の有無に関わらず地域であたりまえの生活を  
ホームのこと：グループホームが地域に点在し、少人数で暮らしを支えています。  
できることは尊重し、難しいところをそっと支える姿勢です。

取り組み：虐待防止（権利擁護）／身体拘束未実施への取り組み／  
防災・感染対策の訓練・研修・演習／行事・外出 など。

※当日資料には、取り組みの写真を一部公開

## 【みんなで話したこと】

### 1) 生活・余暇

- ・趣味の外出（例：スポーツ、買い物）など、個々が自分らしい過ごし方をしているという紹介があった。
- ・趣味活動の継続や、外出先の幅広さに対して地域住民から前向きな感想が寄せられた。
- ・ホームを利用することで生活リズムが安定した例が紹介された。
- ・昼夜逆転が改善し、家庭での過ごし方も落ち着いたという声があった。
- ・ヘルパーなどを利用し、外出を楽しんでいる方も。

### 2) 支援体制・安全

- ・休日は帰省する人もいれば、外出やヘルパー利用、ホームでゆっくり過ごすなど多様。
- ・利用者の過ごし方に合わせ、将来的な体制の工夫や見直しができることにより安心につながるという意見があった。
- ・防災・感染対策の研修や避難手順の確認を重ね、いざという時に慌てない準備を続ける。

### 3) 地域とのかかわり

－実習の所感として、

- ・日中活動の場では、利用者を「サービス利用者」というより、地域に参加する一人の“生産者”として捉える姿勢が印象的であった。
- ・視覚的支援をはじめ、それぞれの特性に応じた個別支援の大切さを実感した。
- ・グループホームでの生活が安定していることが、日中活動の安定にもつながっていると感じた。

ーホーム現状

- ・自治会への加入や回覧板のやりとりはあるが、利用者が地域行事に参加する機会は多くない。
- ・地域清掃や防災訓練への参加を促す試みはあるが、本人の希望もあるため無理強いはしていない。

ー地域住民・相談支援から

- ・行政窓口への相談
- ・自治会・民生委員との連携
- ・地域イベントへの参加など、今後のつながり拡大への助言があった。
- ・日中事業所の活動先を通じて、地域清掃など“できる範囲の参加”が広がっている例も共有。

**【まとめ】**

- ・利用者の生活の安定や、地域との関係づくりへの期待が共有された。
- ・支援体制や地域参加の課題も挙がり、今後の改善ポイントとして整理された。
- ・事業所からは、今後も継続的に地域連携推進会議を実施し、連携の機会を広げていきたい旨のまとめがあった。